

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	0475500872
法人名	医療法人 泉整形外科クリニック
事業所名	グループホーム 蘭
所在地 (電話番号)	仙台市泉区上谷刈字長命1番地 (電話)022-772-1170
評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会
所在地	仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階
訪問調査日	平成 20 年 10 月 29、30 日

【情報提供票より】(平成20年10月9日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 16 年 5 月 1 日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	24 人	常勤	14 人, 非常勤 10 人, 常勤換算 23.2 人

(2)建物概要

建物形態	併設/○単独	○新築/改築
建物構造	RC 一部木造	造り
	1階建ての	階 ~ 1階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000 円	その他の経費(月額)	19,000 円	
敷金	○有(80,000 円)		無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,300 円	

(4)利用者の概要(月 日現在)

利用者人数	26 名	男性	2 名	女性	24 名
要介護1	6 名	要介護2	7 名		
要介護3	9 名	要介護4	4 名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 85.5 歳	最低	73 歳	最高	95 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	医療法人 泉整形外科病院 おのぞら歯科クリニック
---------	--------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

まだ農地が残る緑豊かな住宅地の一角にあるこのホームは、同法人が経営する介護老人保健施設、関連施設としては特別養護老人ホーム・デイサービスセンター・ケアハウスが近隣にある。これらの施設とは連絡協議会や入居者数の報告等、合同の取り組みもある。管理者は看護師の資格を有しているためその経験を介護支援に活かしている。平成18年より関連の施設との医療連携体制を図るなど重度化の対応も万全である。これまで三度の看取りを経験している。ケアサービスにおいては、各ユニットの理念を振り返りながらケアプランを作成し理念を活かした支援になるよう努力している。課題としては日頃のケアサービスの中で、目前の業務を遂行するために職員本位に流れがちになる場合があるのもっと入居者とのコミュニケーションを図りたいとしている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回評価の改善項目三点の①市町村との連携については努力をしているが、運営推進会議の案内を出しても市からの反応が鈍いなど連携がスムーズに行っているとはいえない。②プライバシー確保の徹底については改善に余地が残る部分もあり、尚今後の努力を要する。③災害対策については改善されている。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>職員全員に自己評価用紙を配布して書いたものを各ユニット長がまとめ、管理者が確認した。改善シートは作成していないが、外部評価をもとにポイントを掴んで勉強会で振り返る機会を設けている。今回の気づきとして、プライバシーに配慮というところで言葉使いや上からの目線でケアにあたっていないか反省点が見えてきたとしている。</p>
	②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は2ヶ月に1度、これまでに12回開催されている。参加メンバーとの、とりわけ自治会長の協力も多大で、回を重ねるごとに内容も充実してきている。メンバーに行政の参加もお願いしているということなので実現できるよう期待したい。</p>
重点項目	③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>事業所の苦情相談窓口と苦情解決責任者の担当者・法人の第三者委員を明記し、又公共の相談窓口を設けている。意見等が寄せられた場合、きちんと対応が出来る。家族の意見を吸い上げる役割として運営推進会議にユニットごとの参加をいただき、サービスの向上につなげている。</p>
重点項目	④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>町内会に入会し、夏祭りや清掃などの行事に積極的に参加している。踊りや音楽のボランティアや、地域の中学生の体験学習などの受け入れ、又高校生がボランティアとして来訪するなどの交流も行われている。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	3ユニット共通の運営理念の他にユニットごとの理念が作られている。もともと住み慣れた地域で「にこにこ・ほのぼの・いきいき」と自立支援につながるようにと皆で考えて作られたものである。理念はサービスする上での原点と捉え、1年に1回位の見直しが求められる。	○	地域密着型サービスの意義を謳った理念、又言葉だけでなく実践に活かせるような理念になるよう見直しをして、サービスにつなげられるようお願いしたい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員は理念を意識して、「その人らしく・楽しく暮らせるように・人間としての尊厳・ゆっくり一緒に」等々日頃の支援に活かせるよう努力している。全職員が共通理解し常に理念を念頭に置いての支援になるよう今後の努力を期待したい。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に入会し夏祭りなどの地域の行事に参加したり、小学生の学習発表会見学に出向いたり、中学生の職場体験学習を受け入れている。地域の人からの介護相談に応じている。又、音楽・踊りなどのボランティア来訪や近所のお店から定期的に調味料購入などのお付き合いもみられ地域との交流が図られている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員全員で前回の外部評価、今回の自己評価について「サービス評価の会」で話し合いをした。地域とのつながりが薄い等の気付きがあり、改善点の検討をしている。外部評価を定期的な事業の見直しや職員の取り組みに活かし、意識を高める努力をしている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族の代表・自治会長・地域包括支援センター・管理者・職員(3名)から成り、これまで12回の運営推進会議が開催された。回を重ねるごとに内容も充実し双方向の会議になっている。避難訓練の報告・研修や行事についてなどの報告や家族からの意見なども活発に述べられており、サービス向上に活かされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市主催の研修会に参加したり、仙台市教育委員会からの中学生の体験学習や認知症実践者研修の外部研修の受け入れをしているが、市からの協力はスムーズとは言い難い。運営推進会議への参加をお願いしているが、今のところ参加はない。事業についての理解と支援を深めていただきたく協力をお願いしたい。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の来訪時に日常の様子を伝え、毎月発行する会報にて職員の異動なども知らせている。但し異動については事前に何らかの方法で知らせる必要があり配慮が足りなかったと反省をしているということであった。金銭管理の報告は領収書を添付して明細を報告し家族に確認していただいている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情受け付け先として担当者・解決責任者・行政機関・法人の第三者委員(弁護士)を明記している。尚、民生委員や自治会長や地域のより身近な方に事業所としての第三者委員としてお願いし、家族が気軽に話せる機会を設けるよう望みたい。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の定着なくしてケアサービスの向上はありえないという考えから異動は出来るだけしない。新しい職員が入職する場合には前もってホームに顔出しをしたり、1～3ヶ月の研修期間に他の職員と行動を共にしながら馴染みの関係を築き、共通の意識でケアにあたりダメージを防ぐ工夫をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間計画を立て全職員が個々の目標を持って外部研修を受けていて、ストレス解消やネットワーク作りにもなっている。学んだことを伝達講習時に伝えて共有している。内部研修は「火の用心会」「広報の会」「生活の会」「学びの会」「サービス評価の会」「食事の会」を3ユニット合同で定期的に学び、モチベーションを上げている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	NPO県グループホーム協議会に入会し、管理者以外の職員が参加することもある。泉区内のグループホームとのネットワーク作りも活発で、徐々に面識ができて利用者申し込みの情報交換など協力している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事前に見学し雰囲気を感じていただき、不安を受け止め家族からの情報と気付きをケアプランに取り入れて、心穏やかに生活できるよう支援している。入居者が馴染むまで家族の面会を多くしていただくなどの工夫もしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者に寄り添って気持ちや思いを汲み取り、一方的な支援にならないようにしている。日々の関わりの中で料理や様々な知識を教えていただくことも多く、時には相談相手になっていただくこともある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人との会話や入居者同士の会話の中からヒントを得たり、散歩や入浴時に本音が出るがあるので見逃さず把握するようにしている。意思表示が出来にくい方については「言わないのではなく言えないのである」ことを理解し、ふとした仕草からくみ取ったり生活歴や家族の意見を参考にして共有し支援している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人・家族の意向や希望を聴き、職員全員で定期的カンファレンスを行う。個別の記録はSOAP形式(本人・客観的状況・アセスメント・プラン)を用いて、フェースシートなどの東京センター方式を一部取り入れ介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	現状に即した介護計画を作成するために月1度モニタリングを行い、3ヶ月ごとに見直しを行っている。家族アンケートからも介護計画を分かりやすく説明し、一緒に内容について話し合いをしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院・緊急時の通院や、家族とのつながりも大切に考えて定期的な外泊を支援している。個々のニーズに応じて柔軟に支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望するかかりつけ医の受診を支援し、緊急時にはかかりつけの病院に通院・搬送・協力医療機関の受診が出来るように連携が図られている。終末期には往診可能な医療機関との関わりがスムーズに行われ、即対応が出来、心強いということである。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	事前にホームに於ける終末期についての家族アンケートを行い、意向を介護に生かしている。医師・家族との話し合いを行い、方針の統一を図り意思確認書を成文化している。これまでに三度の看取りを経験し、亡くなった後にも家族から温かい言葉をいただき職員の励みになっている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報についての保護管理は職員も理解している。自尊心を傷つけない配慮について、時として過度の言葉かけになるところがあり注意しあっているが充分ではない。	○	声掛けや声のトーンにも配慮するなど入居者が人前で恥ずかしい思いをしないよう尊厳をもってケアにあたるよう望みたい。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れは持っているが、基本的には入居者個々のペースに合わせての生活になっている。しかし職員は更なる支援の希望を探り、日々の余暇の過ごし方の工夫をしたいと前向きである。一人ひとりに寄り添うことにより望みを把握し支援に活かせるよう期待したい。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る方には調理・食事前後の準備や片づけを手伝っていただいている。食事中はテレビを消して会話を楽しみながら職員もさりげないサポートをし、一緒に食べていた。静かに流れるBGMによりゆったりした気持ちになり、自然に拍子をとっている方も見受けられた。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	好きな時に入浴していただけるよう毎日沸かしている。ほとんどの方が毎日入浴し、夜間の入浴を希望する方には希望通り支援している。拒否する方には声掛けや甘いものを食べていただいて気分転換を図ったり、音楽をかけるなどの工夫をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	野菜作り・習字・手仕事など得意分野での力を発揮し、楽しんでいただけるような場面作りをしている。しかし、職員は高い意識を持ち現状時点で入居者によっての支援に差がないか心配している。今後も本人や家族の意向を丁寧に探り、更なる支援につなげていけるよう期待したい。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	中庭にあるテーブルでお茶を飲んだり、買い物や散歩は日常的に行われている。同法人の近隣の施設にあるレストランや展望台に向くこともある。外出をしたがらない方でも目的のある外出であれば出かけるということである。外気に当たることは四季を感じたり、気分転換になるので今後も積極的に支援していただきたい。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	施錠は拘束であると捉え、日中は鍵を掛けず自由に入りしていただいている。入居者が行きたい所には一緒にいき、時には他のユニットと協力し合い、行ける状態や環境作りをしている。防犯の意味での夜間の施錠以外は行っていない。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の指導の下、夜間を想定した避難訓練が年2回定期的に行われている。地域の人たちの協力を得ての避難訓練を予定していたが、度々の天候不順のため実現できず次回来月を予定しているとのことである。避難経路は確保され、自動通報装置も設定されている。水、食料等も備蓄されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	2ヶ月に1度管理栄養士の指導・助言をいただき、入居者の体重の増減(2~3kg)が確認された時には相談に出向いている。食事・水分量のチェック表に記録し、状態を把握している。個々の好みや状態に合わせた形状・食事量で提供している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングは広いガラス窓からの日差しや天候によって温度差があるので、定時に空調の温度管理をしている。臭いなどにも気をつけてこまめに換気をし、アロマ加湿器を取り入れている。絵画や入居者の習字・手作りの布のカレンダーなどが飾られ、温かみを感じられる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者が使用していた冷蔵庫・テレビ・人形などの馴染みの物を持ち込んだり、仏壇が置かれている居室もあった。使用していた物を持ち込めない方は写真や花が飾られたり、安心してくつろげる環境になっている。居室に洗面・トイレがあり、ほとんどの方が自室でのトイレを使用している。		